

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

79

大和 茂之

この連載のわたしの担当では、甲殻類のいろいろな分類群について触れてきた。水族館で観察できるものという制約はあったが、普通の人が気にも留めないようなマイナーな分類群についても紹介してきた。これがわたしの担当の最後でもあり、甲殻類のまとめをしてみた。

甲殻類は、陸にいる昆虫やクモ類、ムカデ類などと同様に、節足動物の中の一群である。全体が硬いクチクラの外骨格に

一般的に頭部、胸部、腹部などに分かれているが、腹部が退化したり、頭部の背中側が伸びて甲羅となつて胸部を覆つたりするものもある。体の前から後ろにかけては、竹の節のように各節が並ぶ。各体節には関節になつた足が

繁殖のとき、交尾のために雄が雌を抱きかかえるのに用いたり、雌が卵を抱えたりすることもある。足のさまざまな形態を理解することは、動物のさまざまな生活を理解することにもつながっている。

以上のような特徴は、一見すると非常にややこ

いろいろな足

覆われているために、脱皮を繰り返しながら成長する。

一対ずつ付いている。足が何対あるかまたどのような形をしているのかは、それぞれの分類群の特徴を示しているから、この連載でも細かいところまで触れてきた。甲殻類の足は、先が二又に分かれたものが基本形なのだが、葉っぱ状になったり、毛が生えたり、棒状になったり、はさみになったりする。

白浜水族館には、50種ほどの甲殻類が常時展示されている。多様な甲殻類を一望できるだけでなく、生きた状態でも観察ができる。体の形態を眺め、体の各部分の働きを理解するのに、これほど便利な場所はないだろう。まさしく「水族館へ行こう!」ではないか。



セミエビの雌のいろいろな足。左上から第一触角、第二触角、第三顎脚、第一歩脚、第五歩脚、右上から第二腹肢、尾肢

足の役割も多様である。歩行や遊泳などのために用いられるだけでなく、感覚、摂食、呼吸のために特殊化したものもある。

(京都大学助教)